

第1学年 道徳科學習指導案

日 時：平成30年10月24日（水）5校時
場 所：第1学年教室
指導者：教諭 我妻宏昭

1 主題名 友達っていいな B-（10）友情、信頼

2 主題について

（1）ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編の「B 主として人との関わりに関すること」の「10 友情、信頼」にあたる。友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼をもつことに関する内容項目である。

低学年の時期は、学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることによって、友達のよさをより強く感じるようになる。

したがってこの時期に、特に身近にいる友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。そのためには、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら、友達と仲よくする大切さを育んでいくようにする必要がある。

（2）児童について

本学級は、男子4名、女子2名、計6名の学年である。本時の授業にあたって関連する意識調査の結果は、以下の通りである。

（7月17日実施 男子4名 女子2名 計6名 集合での聞き取り）

A (だいたい身に付いている)	B (どちらかと言えば身に付いている)	C (あまり身に付いていない)	D (不足しているので今後身に付けたい)	A	B	C	D
だれに対しても思いやりの心をもち、親切にする。				2	4	0	0
友達となかよくし、お互いに助け合う。				6	0	0	0

少人数ということもあり、休み時間には、6名全員で校庭で遊ぶ姿も見られる。上の意識調査の通り、交友関係は良好である。

しかし、学校生活にも慣れ、ときおり自分の意見を強く押し通す姿も見られ、友達の立場を理解したり、自分とは異なる考えを受け入れたりすることが難しいと感じる。

学級にいろいろな友達がいる、考えが合わずにけんかをするときに、相手の気持ちを考えて、自分から声をかけたり、相手に働きかけたりしようとする気持ちをもつことは、本学級の児童にとってこれから必要になると考える。

（3）教材について

- ① 教材名 「こころはっぱ」 出典：「あたらしい どうとく 1」 東京書籍
- ② 価値 B-（10） 友情、信頼
- ③ 教材について

寂しそうな様子で友達をほしがるいのししくんを、木の上から見ていたうさぎちゃん、たぬきくん、きつねくん。3匹は「ともだちになって」「いっしょにあそぼう」といのししくんに声をかける。そのおかげでいのししくんは、3匹と関わりをもつことができる。新しい友達ができる喜びや、声を掛けられることのうれしさを、みんなの心の声によって色を加えるこころはっぱの木の様子を通して考えることができる教材である。

- ④ 教材分析（別紙）

(4) 指導にあたって

展開の段階で、「こころはっぱ」の色の変化を通して、主人公のいのししくんの心の変化も捉えさせるようにする。

役割演技では、仲よく遊ぶ4匹の気持ちと、4匹が仲よく遊ぶ姿を見守る「こころはっぱの木」の気持ちを擬人化し表現させことで、友達と仲良くする大切さ、また友達がいるよさに気付かせる。

終末の段階では、ワークシートを用い、「友達がいてよかった、うれしいなと思うのはどんなときですか」と具体的な視点を与えて書かせる。このことによって、自分自身のこれまでの友達との関わりを振り返させることによって、友達がいることのよさを実感させ、またこれからも進んで友達に関わって仲よくしていこうとする気持ちを高めさせる。

(5) 研究の視点

【視点1】道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業展開の工夫

a 役割演技

・役割演技で、4匹が仲よく遊ぶ姿を見守る「こころはっぱの木」の気持ちを擬人化し表現させことで、友達と仲良くする大切さ、また友達がいるよさに気付かせる。

b ワークシート

・児童の実態に合わせ、ワークシートを用いて本時を通しての自分の考えを書かせる。その際「友達がいてよかった、うれしいなと思うのはどんなときですか」と具体的な視点を与えて書かせる。この活動を通じ、自分自身のこれまでの友達との関わりを振り返させることによって、友達がいることのよさを実感させ、またこれからも進んで友達に関わって仲よくしていこうとする気持ちを高めさせる。

(6) 宮城県学力向上に向けた5つの提言との関連

本授業では、「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。

提言1を踏まえ、役割演技の際には、児童の発言をじっくりと聞き、児童一人一人の考えを尊重する。

提言3を踏まえ、終末の段階には、児童それぞれの体験を書かせる時間を設け、自分自身のこれまでの友達との関わりを振りかえさせることで、友達がいることのよさを実感させ、またこれからも進んで友達に関わって仲よくしていこうとする気持ちを高めさせる。

3 本時の学習

(1) ねらい

役割演技を通して、友達と仲良くしようとする心情を育てる。

(2) 準備物

- ① 教師：掲示用挿絵 ワークシート
- ② 児童：筆記用具 教科書「あたらしい どうとく1」

(3) 学習過程

段階	学習活動 (◎中心発問 ○発問 ・児童の反応)	・指導上の留意点 ◇評価(方法) ※研究の視点 【5つの提言】
導入 5分	1 小学校に入学し、どのように友達ができるか思い出す。 ○小学校に入学して、どうやって新しい友達ができましたか。 ・友達が遊びにさそってくれた。 ・一緒にお絵かきをしようといった。	・教材の動物たちの行動をより身近に感じるよう、児童のこれまでの生活体験、友達との関わり方を想起させる。

展開	<p>2 「こころはっぱ」を読んで話し合う。</p> <p>(1) 教師の範読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書を見ながら、教師の範読を聞く。 <p>(2) いのししくんの気持ちとこころはっぱの色を考える。</p> <p>○いのししくんは、どんなことを思いながら「ともだち、ほしいなあ。」と言ったのでしょうか。そのときこころはっぱが、どうして青にかわったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人でさびいしいな。 友達できるかな。 はっぱが青になったのは、いのししくんがさびしい気持ちになったから。 <p>(3) 3匹の気持ちを考える。</p> <p>○3匹は、どんなことを思って「ともだちになつて。」といったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ひとりでさびしそうだな。」 「こえをかけてあげようかな。」 「ぼくもひとりだつたらいやだな。」 <p>(4) いのししくんの気持ちとこころはっぱの色を考える。</p> <p>○いのししくんは「どっすんどっすん」跳びはねたとき、どんなことを思ったでしょう。そのとき、こころはっぱは、どうしてにじいろに変わったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> うれしいな。 何して遊ぼうかな。楽しいな。 いのししくんがたのしくなつたから、虹色のはっぱになった。 <p>(5) はっぱをおいかける4匹を見守る「こころはっぱの木」の気持ちを考える。</p> <p>○飛んでいくこころはっぱを追いかけながら、みんなはどんなことを思ったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> お話に入る前に「こころはっぱ」の木と、登場する動物たちを紹介し、教材への期待を高めてから、本文を読み聞かせる。 「こころはっぱ」が、いのししの心を代わりに表していることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> この動物たちの中に、自分がいたらどんな声掛けをしてあげるか、自分のこととして考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 「こころはっぱ」が、いのししの心を代わりに表していることといのししくんの心の変化に気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> 友達になった4匹の明るい気持ちをとらえさせると同時に、それを見守る「こころはっぱの木」の気持ちを考えさせる。
----	--	--

		<p>(どうぶつたち)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達がいるといいなあ。 ・みんなで遊ぶと楽しいなあ。 <p>(いのしし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達になってくれてありがとう。 ・声を掛けて、友達になれてよかったです。 <p>(こころはっぱの木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで遊んでいて、楽しそうだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技で、はっぱをおいかける4匹とそれを見守る木になりきってせりふを言わせる。 <p>※ a 1</p> <p>◇役割演技を通して、友達と仲良くする大切さ、また友達がいるよさに気付いていたか。(動作、せりふ)</p>
終 末 10 分	自己 理解	<p>3 友達がいてよかったと思う経験を思い出す。</p> <p>○友達がいてよかった、うれしいなと思うのはどんなときですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に一緒に遊ぶとき。 ・泣いていたら「大丈夫」と声をかけてくれたとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のこれまでの友達との関わりを振り返させることによって、友達がいることのよさを実感させる。またこれからも進んで友達に関わって仲よくしていこうとする気持ちを高めさせる。 <p>※ b 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書いたことを発表させて、「友達がいてよかったと思う経験」を学級全体で共有させる。

3 評価

- ・役割演技を通して、友達と仲良くする大切さ、また友達がいるよさに気付いていたか。(動作、せりふ)

4 板書計画

